

大学における SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の利用例

渡辺 博芳[†]

† 帝京大学理工学部 † 帝京大学ラーニングテクノロジー開発室

〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

E-mail: † hiro@ics.teikyo-u.ac.jp

あらまし SNS は、人と人とのつながりを促進・支援し、コミュニティ型のウェブサイトである。近年、企業や大学等の組織内に限定した SNS を導入する例も増えている。一方、大学においては、教育・学習活動を支援し、広げるツールとして、コース管理システム(CMS)が導入されている。CMS が学習活動を直接支援するのに対して、SNS では、モチベーションの向上等に寄与することで学習活動を間接的に支援できる可能性がある。このような観点で、2007 年度に帝京大学宇都宮キャンパスにおいて SNS を構築し、利用実践を行ってきた。SNS 上の日記やコミュニティでの投稿内容を分析した結果、学習活動や学生生活の支援として有効と思われる場面がいくつか観察された。キーワード ソーシャルネットワーキング(SNS)、大学情報システム、学生支援

An Example of Practical Use of Social Networking Service in University

Hiroyoshi Watanabe[†]

† School of Science and Engineering, Teikyo University † Learning Technology Laboratory, Teikyo University

1-1 Toyosatodai, Utsunomiya-shi, Tochigi, 320-8551 Japan

E-mail: † hiro@ics.teikyo-u.ac.jp

Abstract A social networking service (SNS) is a web site of community type which provides a collection of services for users to interact each other. Recently, a certain number of organizations such as companies, laboratories and universities use in-house SNS. On the other hand, many universities adopt course management systems (CMS) to enhance and support student learning. While CMS supports learning activities directly, SNS has possibilities of supporting learning activities indirectly. Based on the idea, we constructed SNS within Utsunomiya campus of Teikyo university and have used it for a year. The results of analyzing every messages posted, some effective instances for supporting learning activities and campus life were observed.

Keyword Social Networking Service (SNS), University Information Systems, Support for Students

1. はじめに

近年、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の活用事例が増えてきている。SNS は、人と人とのつながりを促進・サポートする、会員制のコミュニケーションサイトが提供するサービスである。最近、誰もが参加できる SNS だけでなく、参加者を限定した SNS も増えてきており、企業内や地域においても SNS を活用する動きがある。

大学においても、SNS の活用が始まっている。例えば、日本福祉大学では「Fuxi」と呼ぶ SNS を導入し、CMS(コース管理システム)との連携を試みている[1]。インターネット上を検索すると、他にも多くの大学において SNS が立ち上げられているようである。これらは、大学が運用しているサイト、学生ベンチャー企業が運用しているサイト、大学と関係なく OB と学生の有志が運営しているサイト等、様々である。また、SNS

に関して、大学生の SNS における対人信頼感に関する研究[2]、Web 日記におけるコミュニケーションに関する研究[3]等も行われている。

本稿では、大学における情報システムとしての SNS の位置づけと有効活用法について検討し、帝京大学宇都宮キャンパスにおいて実践した SNS の活用実践例を報告する。

2. 大学内 SNS の位置づけ

大学には様々な情報システムが存在する。これらのうち、履修登録システム、図書検索システム、連絡用掲示板システム、語学学習システム等は利用目的が具体的であり、明確である。一方、SNS の目的は、「ユーザ間のつながりを促進する」、「ユーザ間の親睦を深める」等と言われることが多いが、先に述べた情報システムに比較すると、利用目的は具体的ではない。

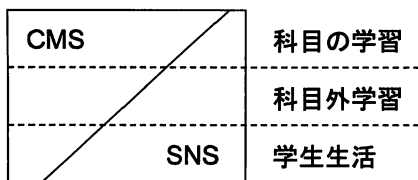


図1 CMSとSNSの利用場面のイメージ

また、近年eラーニングの広まりとともに、多くの大学においてコース管理システム(CMS)の導入が進んでいる。帝京大学宇都宮キャンパスでは、2002年度にCMSのWebCT(現BlackboardLS)を導入し、以来、通常の授業での学習を支援する手段として活用を進めてきた[4]。2007年度は142科目(宇都宮キャンパスの開講科目の約23%)で活用しており、教育における重要な情報通信基盤となっている。

コース管理システム(CMS)は、学習・教育活動を支援するための様々な機能を集めたシステムであり、工夫次第で様々な利用法が可能である。また、CMSとSNSには電子掲示板やスケジュール等、類似の機能もある。そこで、特にCMSとの比較においてSNSの位置づけを検討したい。

2.1. CMSとSNSの特徴

CMSでは各科目に対応するコースと呼ばれるエリアを設ける。そこにアクセスできるのは、担当教員と履修者、聴講生等に限定されている。コースにおいて、デジタル教材が提供され、オンラインテストやレポート提出、メールや掲示板を利用したインタラクションが行われる。学生のグループを管理する機能を用いれば、オンラインでグループワークを行う場を提供できる。また、CMS上で、教員が学生のアクセス記録や成績データ等を管理することができ、個々の学生が自分の成績データを確認することもできる。

このようなCMSの特徴は、機能が豊富である点、教員によって組織化された「コース」において教育学習活動が行われる点、インタラクションが同一の科目を履修している学生の範囲に限られる点にある。

一方、SNSは、公開範囲を設定した日記と日記へのコメント、コミュニティの掲示板を利用した情報交換、イベント情報やスケジュールの共有等の機能を持つ。CMSとの違いは、機能が比較的限定されているが、個々のユーザ自身がフレンドの範囲を決めたり、コミュニティへの参加・不参加を決めたりできる点、潜在的にはSNSへの登録ユーザ全員とのインタラクションが可能である点である。

2.2. CMSとSNSの利用イメージ

以上で述べたことから、CMSとSNSの利用場面のイメージは図1のようになると考えられる。図1では、縦方向に「科目の学習」、「科目外学習」、「学生生活」の3つに分け、それぞれにおいてCMSとSNSの果たす役割の大きさを面積で表した。それぞれの場面について以下に述べる。

(1)科目の学習

科目の学習では、CMSが大きな役割を果たすが、SNSが果たす役割もあり得る。例えば、SNSにおいて、ある科目について、その科目をいっしょに履修していない学生(上級生等)と情報交換することで、学習内容の理解につながったり、モチベーションが高められたりすることが考えられる。

(2)科目外学習

科目外学習とは、資格試験、就職試験、教員採用試験等、大学の科目とは関係なく、学生が学習する場面である。このような学習場面において、CMS上に試験勉強のためのコースウェアを掲載できれば、学習者はeラーニングの形態で学習することができる。CMSは、オンラインテスト機能で過去問や類題の学習をするのにも適している。実際に、本学で、就職適性検査の類似問題を学生補助員に作成してもらい、CMSに掲載して演習ができるようにしたという事例がある。

一方、SNSでは資格試験のコミュニティを作成し、情報交換を行ったり、日記に資格試験の学習の様子を投稿したり、それにコメントをつけあったりすることができる。それらが、教え合いやモチベーションの維持につながる可能性がある。また、SNSでは、CMSで提供される同一のコースウェアの受講者でない学生(既に資格を取得した学生やこれからチャレンジしようと考えている学生)とのインタラクションも期待される。

(3)学生生活

学生生活に関しては、SNSの果たす役割が大きいと考えられる。ただし、CMSにおいても、同じ年度に入学した同じ学科の学生が含まれる「学級コース」を作成し、学生生活を支援することが考えられる。実際に、本学において「学級コース」としてのCMS利用事例も存在する。一方、SNSでは、学生自身がサークルや同じ趣味を持つ学生のコミュニティを作成したり、友達関係を広げたりすることができる。特にOB・OGの参加が得られれば、学生が、就職活動や社会人生活についての情報を得る機会も増えることが期待される。このような利用場面では、ユーザ自身がコミュニティを作成したり、フレンドの範囲を決められたりといったSNSの特徴が生きてくると考えられる。

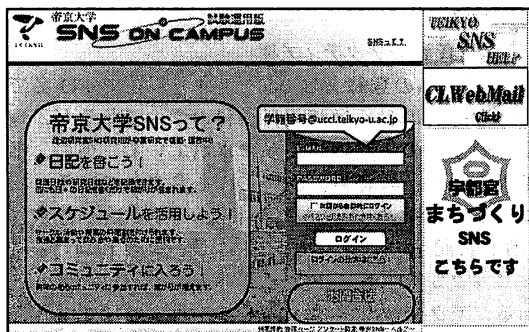


図2 帝京 SNS のログイン画面例

以上から、CMS が学習活動を直接支援するのに対して、SNS では、モチベーションの向上等に寄与することで学習活動を間接的に支援できると考えられる。

3. SNS の構築と運用

3.1. 構築と運用の方針

本研究で構築、運用する SNS を「帝京 SNS」と呼ぶ。帝京 SNS への登録者は、帝京大学の学生と教職員、OB・OG に限定する。そのため、登録方法は、ユーザが友人を自由に招待する形態ではなく、管理者からの招待制とする。

SNS では、新しい友人を作ったり、友人との親睦を深めたりすることが主目的となると考えられるが、他にも、以下のような利用場面を想定した。

- (1)大学の研究室やサークル等の大学内コミュニティでの活用
- (2)OB・OG とのコミュニケーションの場
- (3)学生生活の情報交換・相互支援の場
- (4)科目および科目外学習の相互支援の場
- (5)大学のポータルサイトとしての活用

研究室やサークル等での活用、大学生活における情報交換のためには、スケジュールの管理や共有を行うと便利であると考えられるため、スケジュール機能を中心に機能のカスタマイズを行うこととした。また、ポータルサイトのような活用ができるように、ホームに大学の公式サイトや主要な学内サーバへのリンクを設けた。

3.2. 帝京 SNS の構築

図2に帝京 SNS のログイン画面を示す。ログイン画面には SNS とは何かを知らない人にも、分かってもらえるように、帝京 SNS ではどのようなことができるか、どのようなことをすれば良いか、ということを中心の枠に記述している。また、右上の「SNS って？」から説明のページへのリンクを設けた。

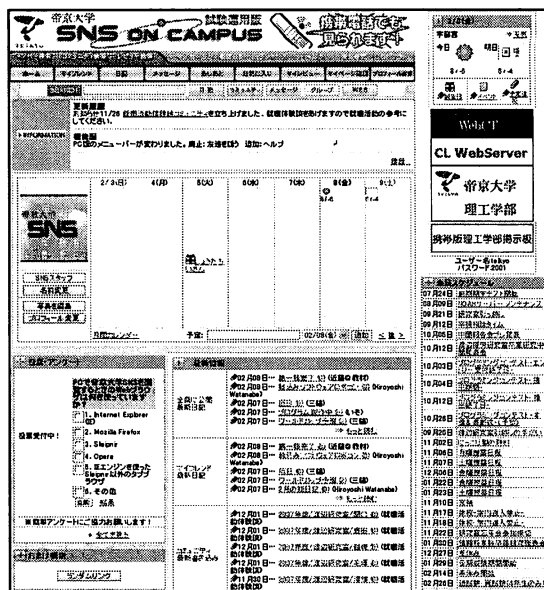


図3 ホームの画面例

図3に帝京 SNS の典型的なホームの画面例を示す。帝京 SNS はオープンソースの SNS エンジンである OpenPNE(<http://www.openpne.jp/>)をベースとして、以下の8種類の拡張モジュールを追加して、機能の充実化を図った。

(1) ビジネス向けオプションの PNEBIZ

これはグループ機能やスケジュール管理機能を備えている拡張モジュールである。研究室やサークルといったグループでのスケジュールの管理に役立つと考えて導入した。図3の中央部分に配置している。

(2) 天気予報表示モジュール

これは、自分の選んだ地域の天気予報をスケジュール機能部とサイドバナーに表示するモジュールである。図3の右上の部分に配置している。

(3) 全員に公開最新日記表示モジュール

これは、メンバーの最新情報に「全員に公開」された最新日記を表示するモジュールである。

(4) RSS 配信モジュール

これは、ブログや記事等、毎日配信する文章フォーマットのようなものを配信するモジュールである。

(5) ランダムリンクモジュール

これは、3日以内にログインしたメンバーヘランダムに他のメンバーのページにアクセスするためのモジュールである。

(6) マイフレンドリストの色変えモジュール

これは、マイフレンド一覧を表示した際に、ログインした時間ごとに顔写真の表示枠の色が変わるモジュールである。

ールである。

(7) BBCODE 入力支援モジュール

これは、日記やコミュニティへの書き込みの際に文字装飾を行うことができるモジュールである。

(8) OpenPNE 拡張モジュール

これは、レスをつける機能・顔写真機能・LightBox 機能を持つモジュールである。

以上のモジュールのうち、(1)は、主にスケジュール機能を充実させるために、(2)～(4)は情報を取り出しやすくするために、(5)～(8)はインタラク션을楽しくするために導入した。

さらにポータルサイトとして活用するため、ホームに大学の公式サイトや主要な学内サーバへのリンクを、サイドバナーと呼ばれるフリースペースに貼り付けた。図3の右の部分がそれである。また、定期試験期間や授業の変則日程といった大学内の日程をスケジュール機能に載せることで、大学の情報を共有できるように工夫した。

3.3. 帝京 SNS の運用

SNS の構築後の準備として、既存の SNS を参考に帝京 SNS 向けに利用規約を作成した。また、SNS に参加すると同時に参加するようになっている初期コミュニティや、SNS を活用したことのない人のための HELP 等も作成した。

方針で述べた「管理者からの招待制」は、帝京 SNS の紹介ページやポスターにおいて掲載した管理者のメールアドレスに、参加希望の方からの申込みを受け付け、折り返し、招待メールを送ることで実現している。学生、教職員は大学のメールアドレスを指定することで本人を確認し、OB・OG からの申込みについては在学時の学籍番号と名前を確認した後に招待メールを送ることとした。

今年度は、SNS への登録者を集めるために、学生全員の帝京大学宇都宮キャンパスで使われているメールアドレスに対して、管理者からの招待メールを送付した。同時に、学内掲示板への登録呼びかけのポスターの掲示を行った。さらに、情報科学科1年生の授業において、SNS への参加を呼びかけたほか、大学を訪問した OB・OG に本サイトを紹介した。

2007 年7月の運用開始後、日記やコミュニティにおいて規約を逸脱した書き込みがないかといった調査や、登録人数やログイン間隔が3日以内の登録者の割合であるアクティブ率の推移の調査を行った。また、新規登録希望者への招待メールの送付や、登録者からの要望への対応も行った。

4. SNS の利用状況

4.1. 登録者数とアクティブ率

帝京 SNS への登録者は2008 年4月現在で133 名である。登録者の多くは情報科学科の学生であるが、理工学部の全ての学科の学生が含まれている。他に、通信課程の学生、教職員、OB・OG も含まれている。26 のコミュニティが作成され、日記の書き込み件数は887 件、日記へのコメントが1153 件、コミュニティへのトピックが110 件、トピックへの書き込みが220 件である。アクティブ率は、2008 年1月までは20%から45%の間を推移していたが、3月以降は10%から20%程度と停滞気味である。これは、アクティブに活用していた学生の卒業が影響していると考えられる。

4.2. 投稿内容の分析

2008 年1月までの日記やコミュニティへの投稿内容を分析した。日記の多くは日頃のちょっとした出来事や思ったことの書き込みであったが、最初に想定した利用場面に相当するような利用事例もいくつか存在した。これらを以下に示す。

(1) 研究室等の大学内コミュニティでの活用

研究室コミュニティでは、活動報告や意見交換、教員による指導、予定の共有が行った。研究室メンバーに、研究活動を日記に書き込むように求め、必要に応じて教員がコメントを書き込んだ。日記に、関連する図を添付して、自分の行っている研究活動を記述し、疑問に思うことも書き込む学生もいた。それに対して他の学生が意見をコメントとして載せたケースも多かった。これは、研究室が主体となって SNS を運営していたためだと思われる。一方、サークル等のコミュニティもいくつか作られたが、登録ユーザー数が少ないためか、ほとんど活性化しなかった。

(2) OB・OG とのコミュニケーションの場

OB からの書き込みが数件存在した。その中で OB が自己紹介として日記に自分の働いている会社の勤務地等を書き込んだ後、学生の質問により、OB が会社の社員寮に関する情報を新たに日記に載せた事例があった。また、別の OB が会社の研修で受講した情報技術の紹介を日記に掲載することもあった。

(3) 学生生活の情報交換・相互支援の場

就職活動に関する情報の共有や学生の交流が行われた。具体的には、就職活動の体験談に関するコミュニティにおいて、就職活動を終えた学生が就職活動を通してどのような体験をしたかという情報をトピックに書き込んだ。他に、電車通学の学生から通学時の乗り換えのティップスが日記に書かれたことがあった。また、今まで交流のなかった学生同士が日記を通じて交流するようになり、その後実際に会って交流するようになったという事例も存在した。

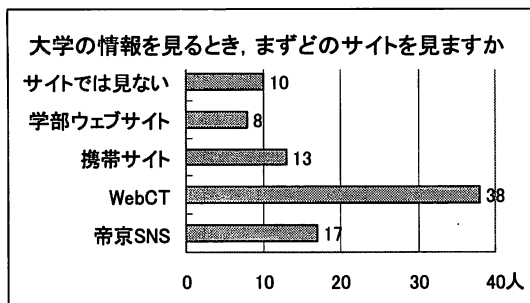


図4 大学の情報を見るサイトに関する回答結果

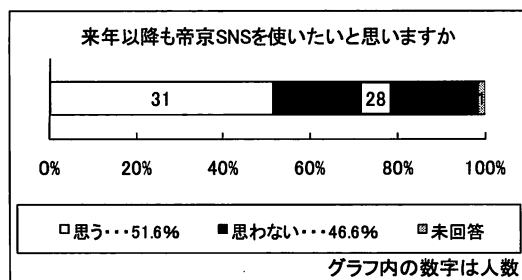


図5 今後の SNS 利用についての回答結果

(4) 科目および科目外学習の相互支援の場

ある科目の定期試験の出来に関する日記を書いた一年生に対して、上級生がその科目の再試験へのアドバイスをコメントとして載せたことがあった。また、情報処理技術者試験の受験者コミュニティにおいて、試験の日程や会場に関する情報の共有や過去問の解法の教え合いの事例が存在した。

4.3. SNS ユーザへのアンケート

2008年1月に、SNS登録ユーザに呼びかけて、アンケートを実施した。当時のSNS登録者は126名、アンケート回答者は60名である。回答者にはSNSにユーザ登録したきり、ほとんど使用していない学生も含まれる。図4と図5に結果の一部を示す。

図5は、大学の情報を見るときに、まずどのサイトを見るかについての回答結果である。この質問は複数回答可能である。最も人数が多いWebCTは本学で採用しているコース管理システム(CMS)である。この結果から、SNSユーザも、大学の情報を取り出す際の入り口としてSNSを必ずしも使っていないことがわかる。

図5は、来年度以降、帝京SNSを使いたいについての回答結果である。利用したいという回答は約半数であるが、詳細に見ると、月に1度以上の頻度で利用していたユーザの82%が、継続的に利用したいと考えていることがわかった。

5. おわりに

本稿では、大学におけるソーシャルネットワーキングサービス(SNS)を、コース管理システム(CMS)との比較によって位置づけ、帝京大学宇都宮キャンパスでのSNS構築と利用例について述べた。

これまでのSNS利用実践において、最初に想定した学生生活や学習支援として有効と考えられる4つの利用場面で、少数ながらも有効な活用場面が見出された。このことから、大学内SNSの有用性が示唆されたと言える。しかし、アクティブ率もMixi等と比較して低く、「有用性が高い」とは言い難い状況である。

今後、登録ユーザを増加させながら、もう少し実践を継続して、大学内SNSの有用性を見極めたい。

文 献

- [1] 佐藤慎一, 大場和久, 影戸誠, 中野恭志, “黒瀬友行, 仲道雅輝, 中村伸一: CMS と SNS の連携した学習支援システムの構築,” 情報処理学会第4回CMS研究会予稿集, pp.41-48, 2006.
- [2] 木村忠正, “大学生初期利用者に見る SNS (Social Networking Service) と対人信頼感,” 日本社会情報学会学会誌, Vol.17, No.2, pp. 23-31, 2006.
- [3] 梅田恭子, 内藤祐美子, 野崎浩成, 江島徹郎, “SNS における Web 日記を介した大学生のコミュニケーションに関する研究,” 教育システム情報学会研究報告 Vol.22, No.2, pp.65-71, 2007.
- [4] 武井恵雄, 渡辺博芳, “特集 教育改善のための教育・学習支援 「ラーニングテクノロジーを活用した授業改善の支援と普及 ～帝京大学～」,” 大学教育と情報, 私立大学情報教育協会, 15 巻, 2号, pp.8-10, 2006.